

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

国際理解事業及びボランティア活動に本年度も精力的に取り組んできた。昨年度より英語コースの第1学年に学校独自科目として設定した『UNESCO(ユネスコ)』では、外国人講師の指導のもと、水資源や森林保護、世界遺産について学び、発表する活動的な授業が展開された。平成20年に国際ロータリークラブの認証を受けたインターアクトクラブ内に、新たにユネスコ班をおき、千葉県内のユネスコ連絡協議会に出席することで情報を共有した。エコキャップ回収、学校周辺及び無人駅の清掃と植栽活動、書き損じハガキ回収、募金活動などは、学校全体で取り組むボランティア活動として定着をしてきており、大きな成果をあげている。

本年度、特に力を入れたのがユニクロの協力による『届けよう、服のチカラプロジェクト』である。併設校で、ユネスコスクールに加盟する清和大学附属八重原幼稚園と協働で、子供用の古着の提供を募った。市原中央高校と幼稚園の保護者の協力を得て、段ボール箱15箱分の古着が集まり、ユニクロを通じてモンゴルへと送られた。生徒たちは、古着の提供を呼びかけるためのポスターやチラシの作成、回収箱の製作などに懸命に取り組み、大きな達成感を感じられたようだった。また、千葉県ユニセフ協会の支援を受け、ユニセフの国際的な支援活動を紹介するパネル展を企画し、約2週間にわたって実施した。ユニセフの活動を通じて、全校生徒の国際支援活動やボランティア活動への意識が高まったものと感じている。さらに、フェアトレードについて学ぶ映画上映会を実施した。フェアトレードに関する知識と理解を深めることで、今後の活動に活かされることを期待したい。このほかに、文化祭において日頃のボランティア活動の様子を紹介するブースと石鹸で作るフラワーソープ製作体験教室を実施。フラワーソープ製作体験の際に頂いた参加費を、地震の被害に遭ったネパールへ募金した。

国際理解事業としては、マレーシア、台湾への研修生徒派遣を行なったほか、オーストラリア・ブリスベンにある姉妹校との相互訪問交流を行なった。また、マレーシアからの高校生が来日しての異文化交流も行なった。本年度は、新たに英語コース1年生を対象とした、フィリピンでの3泊4日のアジア異文化研修を実施した。独自科目である『UNESCO(ユネスコ)』で学んだ内容を生かして、スラム街におけるNGO団体の活動視察、孤児院でのボランティア活動、自然環境保護について学ぶフィールドワークなどを、国連プログラムの支援を受けながら実施して成果をあげた。さらに、JETRO研修生が訪問した際には、モンゴルとラオスの『両国の抱える問題』について討論するとともに、異文化理解を深めるグループディスカッションも行なった。これらの事業を通して、生徒一人ひとりの国際理解に対する意識が高まるとともに、コミュニケーション手段として用いられる英語力の大幅な向上も見ることができた。

『地域から世界へ』という考えのもと、次年度はより多くの地域の人々と関わりを持ちながら、生徒一人ひとりの『気づき』につながる活動を実施していきたいと考えている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）